「利用者の食事に着目した個別介助計画」 ~食べこぼしを少なくする食事支援について~

16CC15 中津川 昂祐

I. はじめに

私が担当したA様はコミュニケーションは良好であり、一の過ごし方は車椅子で過ごされ時より寂しい表情が見られた。A様は認知症を持っており、食事の際に食べこぼしが多く見られており、体重が減少していた。そこで、私は今回食事の食べこぼしを少なくする支援を目標とし介護計画を実施したため介護過程で学んだことについて報告する。

Ⅱ. 実習先種別・実習期間

介護老人福祉施設

2017年6月26日~7月28日(うち23日間)

Ⅲ. 事例紹介

A様 80歳代 女性

- 1.家族構成及び生活暦
 - 6人兄弟としてA県にて生まれる、結婚される。子供三人を出産し、理容師として長年働いていた。
- 2.入所に到った理由

ご主人と2人暮らしであった。ご夫婦視覚障害を持っており生活が大変であった。長男は仕事で忙しく長男の嫁は病気で入院しており、A様の介助が難しくなったため、本入所に至った。

3.健康状態

既往歴:認知症、胃炎、便秘、胆石症

- 4.日常生活の状況
 - (1) 移動 車椅子にて全介助、立位が困難
 - (2) 身支度 上衣:着脱 一部介助 下衣:着脱全介助
 - (3) 排泄 トイレは二人介助で行っている
 - (4) 入浴 個浴で全介助
 - (5) 睡眠
 - (6) コミュニケーション
- 5.性格

穏やかな性格である。

6.1 日の過ごし方

フロア内で車いすに座り、過ごされている。

Ⅳ. 介護の実際

1.課題の発見と分析

A様は食事の際に食べこぼしが多く見られていた。食べこぼしの影響から体重の減少や低栄養になるのは大いに推察される。また、食べこぼしは羞恥心や自尊心にも影響を与えるものと考えるため食事の際の食べこぼしに着目した。

2.介護上の課題

食事中食べこぼしがみられるため少しでも軽減できるようにする

3.介護目標

長期目標:施設生活の中に楽しみを見いだし落ちついて過ごしてもらう

短期目標:食事の食べこぼしを少なくする

Ⅴ. 実施及び結果

具体的な援助計画

- (1) A様は傾きがあるためタオルで巻いたクッションを入れて姿勢を整える
- (2) 車いすをテーブルに近づける。
- (3) おぼんを A 様に引き寄せる。(腹部とテーブルの適切な距離)
- (4) 食器の位置を変える。
- (5) スプーンをさらに軽いスプーンに変えてみる 上記の計画を実施した。

結果

7/15 12 時の昼食時に実施すると、A 様はこれまで手づかみで食べることがあったが、それはなくなった。食器の位置を変えることで小鉢がとりやすくなっていた。それはA 様とテーブルが適切な距離にもなったためだと考える。またスプーンをこれまで使用していたものより、小さくて軽いスプーンにすると食べこぼしがなく食べられていた。昼食後、A 様より「美味しかった」とお言葉をいただいた。

7/18 12 時の昼食時に実施して見ると、A 様はエプロンを着用し、エプロンに食べこぼしが見られた。食器の位置を変えることで、これまで行えていなかった左手で食器を持ち食べれるようになった。スプーンを見失うことがなくなり食べこぼしが軽減されたと思う。

VI. 考察

食事は人にとって楽しみの 1 つであり特に高齢者における食事というのは元気に生活を送る上では非常に大切なものであると考える。しかし今回担当した A 様は食事が口まで上手く運べす、食べこぼしが多くみられていた。その為、体重が減少し、日常生活において活気があまり見られない様子であった。そこで今回、A 様の食べこぼしに着目して介護計画を立案し実施した。介護計画を実施することで食べこぼしがなくなったわけではなかった。しかし、スプーンを軽量にし小さいものを使うことで食べこぼしは軽減されていた。今回、私が行った介護計画はスプーンや食器の一など A 様本人ではなく A 様が使用しているものに着目したものであった。川上 りは食事において食事姿勢の重要性に述べ、足の位置について足底が床につかない姿勢は安定しないと報告している。そのため、A 様の食べこぼしをなくすためには食事姿勢についても着目する必要性があると考えられた。

Ⅷ. おわりに

今回の介護実習、事例研究を通して介護計画立案の重要性、実施の難しさを感じた。また様々な文献に触れることで A様に対してさらなる支援の工夫ができたと考える。私自身の知識を増やしていく必要性を感じた。今後はこの経験を 活かし、利用者様、実習指導者様に教えていただいたことを忘れずに勉学に励んでいきたいと思う。

参考・引用文献

1)川上 永子 いつまでも美味しく食べるために~食事の姿勢から考えてみよう!四條畷学園大学 リハビリテーション学部紀要 第9号 2013 P65-P69